

歩くといふこと

結城 文

歩きながら 思う

生まれたての赤ん坊は歩けない

歩くことができるようになるまでの

知らず知らずにした

いくつもの努力

歩く前に 立ち上がる

立つのだって大変

寝返りさえできなかったものが

坐ることを覚える

見守りのなかで――

寝かされてばかりいた姿勢から

初めて座った時

世界はいかに変わったことか

誰にも 坐れといわれずに

座りたいと

知らずしらずに願った結果だ

立とうとして 何度もくずおれ

やがて立つ

みずからの意思で

なんでもないことのように歩いている

すてきなことなどと感謝していない―

それはたくさんの試行が

獲得した能力―

初めて立てた時の

初めて歩けた時の

幼子は何んと誇らしかったろう

私たちは、自分の手で食べることもできる

言葉を使うこともできる

人間のなかにひそむたくさんの力―

生れながら　うちにもっている希求

揺り籠にゆられた日からの　たゆまぬ試行

私たちは　こんなにも多くの

能力を発達させてきた

人間って　こんなにすばらしい

短歌

いとけなき嬰兒のからだに脈々と伝ひぬ希求といふ名の遺伝子